最近の特異火災から

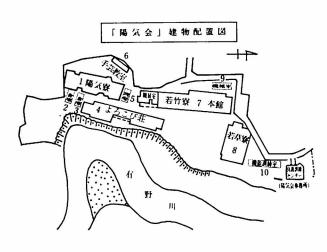
神戸市消防局予防部予防課

去る7月31日深夜、神戸市北区有野町の精神薄弱者援護施設で発生した火災は、収容寮生8名が逃げ遅れて焼死するという、同種施設の火災事例としては過去最大級の痛ましい事故になりました。

神戸市では、この事態を重視し、現在、鋭意調査を進めているところですが、本稿締切日(8月30日)までに判明した事実のうち、特に、防火管理と避難救出活動の状況を中心にこの火災の概要を紹介します。

自律的避難行動が困難な人を収容する防火 対象物の防火管理体制や自衛消防訓練等の指 導の参考にしていただければ幸いです。

1 火災の概要



(1) 発生場所

神戸市北区有野町2509番地の2 社会福祉法人陽気会 陽気寮

- ア 業 態 精神薄弱者授産施設
- イ 代表者 理事長 松端利昌(55歳)
- (2) 発生日時 昭和61年7月31日 (木) 23時40分頃
- (3) 消防隊活動経過
- ア 覚知 8月1日(金)0時03分(119)
- イ 第2出動指令

0 時06分

ウ 第1先着隊

0 時11分

エ 鎮圧

0 時56分

110101000

オ 行方不明者氏名判明 1時50分(7名)

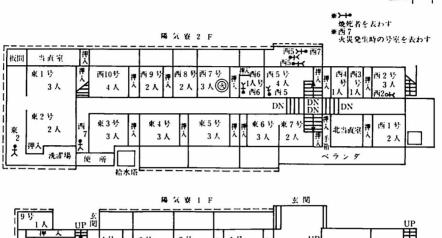
カ 7名の遺体確認

2 時16分

キ 行方不明追加判明

4 時15分

87	棟名称	構造規模	消防用設備等	大大時の在館者	
野				疑川	[4]
1	陽気寮 『収容施設)	鉄骨造モルタル 索 2 階建延1023m [*]	自火報、湯電火 災、屋内栓、消火 器、誘導灯、避難 器具	3人	61人
2	##	賃貸プレハブ造 2階建延68㎡	消火器		
3	倉事	賃貸プレハブ流 2階連延40㎡	消火器		
4	よろこり非 収容施設)	鉄骨及び水道モ ルタル虚 2階建延1014㎡	自火報,渴電火 灭,望内稅,消火 器,誘導切,避難 器具	2人	44 Y
5	理學室	賃貸プレハブ造 主家建29㎡	消火器		
6	手芸教室	狭骨ブレハブ流 平家徳50㎡	消火器		
7	お 【本報 か 石竹単:2下 に収容軌段)	耐火,一部精耐 4 階建延2296㎡	自火報,屋内線, 消火器,誘導灯, 避難器具	1 人	19/
8	T (AFRIL)	賃貸プレハブ造 「家建433m'	自火報. 消火器. 誘導灯	1人	18/
9	機械星	粉 前 平安建29㎡	消火器		
10	機能調練室	負債プレハブ法 2階建延259㎡	非常べル、消火 器		
11	保護講練 センター	耐火造地下1階 地上3階建延 508㎡	自火報,消火器, 過少打		
			台計	7人	10/



1 13 4 11 3 13 2 5 3 人 3 1 3 1 10% 当直室 6 % 5 5 7号 2人 脱被守 1 & 給水塔

陽気寮平面図(焼死者発見状況)

ク 8名の全遺体確認

4 時45分

ケ 鎮火

5 時29分

コ 出動部隊及び人員 11隊 46名

(他に消防団6台147名,警察官20名出動)

なお、第1先着隊が現場到着した時点では、陽気寮全体が火炎に包まれ、隣接のよろこび荘にも延焼していたことから、逃げ遅れた寮生8名はすでに絶命していたものと推定される。

(4) 出火場所及び出火原因

出火場所は、陽気寮2階西7号室押入れ 付近で、出火原因については調査中である。

- (5) 死傷者 焼死者 8名 負傷者なし
- ア 性別 男 8名 女 0
- イ 年令構成 20才代2名 30才代5名 40才代1名
- ウ 障害程度 全員が重度の精神障害の他

言語障害、情緒障害、てんかん、視 覚及び聴覚障害、ダウン症等の重複 障害を有しており、避難能力別では 自力避難不能者1名、単独避難困難 者7名に分けられる。

(焼死者の発見状況は陽気寮平面図参照)

(6) 焼損状況

ア 火元棟 (陽気寮) 鉄骨造瓦棒葺モルタル塗 2 階建

延 1,023m² 全焼損

イ 類焼棟

- a よろこび荘(精神薄弱者更生施設) 木造瓦棒葺モルタル塗2階建一部鉄 骨プレハブ造平家建延1,014㎡のうち 1,2階284㎡焼損
- b 倉庫その他 4 棟焼破損、植木15本 水稲15 a 焼損

合計 6棟 1,375m² 焼破損 損害額 56,702千円

2 陽気会の施設及び防火管理の概要

(1) 施設の状況

陽気会は、約8,000㎡の敷地に精神薄弱者 授産施設の陽気寮、更生施設のよろこび荘、 精神薄弱児施設の若竹寮、若草寮などの収 容施設と管理棟等から構成された総合福祉 施設である。(配置図参照)

火元陽気寮は昭和39年に新築され、その 後一部増築し現在に至っているが、消防用 設備等は法令基準どおり設置、維持管理さ れていた。建物構造等ではアクリル板の多 使用等の問題は一部あるものの、その他特 に重大な事項は指摘されていない。

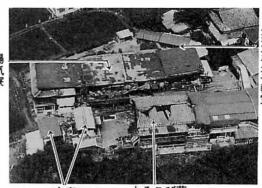
なお、木造で老朽化が進み危険性の増大 していたよろこび荘は、所轄消防署長の勧 告に従い本年度中にRC造に改築されるべ く国庫補助も内定していた。

(2) 防火管理の状況

防火管理者には、施設全体を統括する理 事長自身が選任届出され、消防計画も昭和 58年6月の最終変更届により、より具体的 に見直しがなされ、実際、次のように極め て積極的かつ真摯な対応がなされていた。 ア 防火管理者のもとに、各施設の安全委

員から構成する安全委員会を設け、毎月 の避難訓練の日時、方法を協議するとと もに、防火安全に関する提案を積極的に 取り入れていた。例えば、防火管理のチェックリストの作成と実行、運動場のフェンスに各寮の避難集結場所の表示板の 取り付けなどである。

イ 施設の職員数は、寮生142名に対し70名



倉庫 よろこび荘



炎上中の陽気寮 (西から撮影)

であるが、夜間の当直は7人(陽気寮3,よろこび荘2,若竹,若草寮各1)で行われていた。これらの当直員は曜日毎に固定したメンバーで、チームワークが保たれるよう配慮されており、そのうちの1人は男子職員で、防火管理者の代理(ほとんどが有資格者)として必ず、陽気寮の当直に当っていた。

ウ 避難訓練は毎月1回確実に行われ、消防への届出も行われていた。特に最近では、夜間、夕食後から就寝までの時間帯(20時頃)でも行われており、避難完了に要した時間は5~6分であったという。

又,この避難活動を円滑に進めるため 日頃から寮生の部屋割を決める際,障害 程度の重度者と中・軽度者の組合せに配 慮し、中・軽度者が重度者の避難介護の 補助に当るよう訓練指導していた。この ことは実火災でかなり有効に作用してい る。

以上、陽気会の施設及び防火管理の状況には、特別重大な欠陥があったとは認められない。しかし、残念ながら8名もの焼死者が発生した訳で、その主たる原因のうち、初期消火の障害と119通報の遅れ等の理由は別の機会に譲るとして、この種施設特有の避難誘導の困難性の実態を紹介する。仮に健常者の収容施設であったならば、初期消火の障害等があったとしても焼死者の発生の可能性はまず考えられない状況であるからである。

3 避難救出活動の概要

(1) 出火時の滞在者状況

ア陽気寮

● 2 階 寮生男42名(重·28、中·12、軽· 1、他·1)

当直員2名(男49才,女55才)

● 1階 寮生男19名(重·14,中・5,軽・0)

当直員1名(女51才)

イ よろこび荘

● 2階 寮生女21名(重·10,中·9,軽· 2)

当直員1名(女52才)

● 1階 寮生女23名(重·16,中·6,軽· 1)

当直員1名(女47才)

ウ 若竹、若草寮

園児 37名(重・31, 中・5, 軽・ 1)

当直員 2 名 (女58才, 22才)

(2) 避難救出状況

ア 陽気寮2階

- ●避難の呼びかけで自力避難した者31名
- ●当直員が介護した後自力避難した者1名
- ●理事長等が外からはしごで救出した者 2名
- ●外までの避難介護が不能であったため 焼死に至った者 8名 なお、外からの救出は出火後約15分程度 経過した後で、室内での救出活動は出火 後7~8分が限度であったと推定される。

イ 陽気寮1階

- ●避難の呼びかけで自力避難した者13名
- ●当直員及び近隣者の介護で外まで避難 させた者6名

なお、避難救出活動は出火後約12~13分 に完了したと推定され、この間火煙の進入 は認められていない。

ウ よろこび荘

火災覚知後、1階の当直員はトランジスターメガホンで理事長や近隣者への通報活動を行っているが、初期の避難救出活動は行っていない。主として2階の当直員が火災覚知後、よろこび荘の避難介護に当っている。避難完了には約20分程度要しておりその頃には2階部分へ延焼しだしたと推定される。

工 若竹, 若草寮

火災覚知後、概ね通常の避難訓練と同様 それぞれの当直員の指示に従って避難して いるが、避難の必要性はなかったと思われ る。

(3) 寮生の特異行動

ア 「火事だから起きなさい。」と頭を持ち

上げ半座位にするが、立ち上ることなく また寝込み、これを3回繰り返した後、 後から脇の下に手を入れ廊下まで引き出 した。(別の部屋へ入り込み焼死)

- イ 火事だからと起したら立ち上ったが、 腕組みをし前かがみになって部屋内を三 角形に走り廻り、廊下へ出そうとしたが、 ガンとして出なかった。(自室で焼死)
- ウ 廊下まで出し、階段を降ろそうとした ら誤って踊場までころげ落ちたが、再び 階段をはい上って部屋の中へ入ってき た。(自室で焼死)
- エ 「火事だから早く逃げよう。」と手を引っ張ったが後ずさりするばかりで体が硬直し女子の当直員では引きだすことができなかった。(自室で焼死)
- オ 窓際に取り残されているのを近隣者に 発見され、消火栓用ホースを投げ上げら れ、降下を指示されたが、ホースを持て 遊ぶばかりなので、はしごをかけて降ろ

そうとしたら手すりにしがみついて動かなかった。(若者2人が部屋に上って力まかせに引き離し、別の人が背負って降り計5人掛りで救助)

カ 「火事だから運動場へ行きなさい。」と 言われたのに、トイレにずーっと座り込 んでいた。(よろこび荘最後の避難者で、 確認に手間取った。)

奇しくも、出火日の2日前に脱稿した理事 長の一文の中に「……園生の大半が重度で身 体障害を合併しています。避難訓練誘導に必 死になっても限界があり、自分からすすんで 避難しようとする意志のない人達は、重いお もい石のお地蔵さんの様で……」と書かれて いた。このことが現実に起ったことは運命の いたづらと言うには余りにも酷であるが、 我々としてはこの事実を厳しく受けとめ、新 たな安全対策を追求しなければならないと考 えている。

